

平成23年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.1

主要事業名	学校図書館の整備	作成日	H24.5.25
		担当 部名	教育委員会
		担当 課名	鹿嶋っ子育て課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	③ 読書活動の充実

2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 児童生徒の自主的な学習活動を支援し、積極的な読書活動を充実させることにより、情報収集及び活用する能力を高めるとともに、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。
重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 図書館資料の充実と空間の整備 学校図書館司書を配置し、レファレンス・読み聞かせ・資料展示会の実施 容易に資料が検索できるシステムの構築 児童・生徒・教員にとって魅力ある図書を購入できる予算の確保
対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象 小学生・中学生・教員 規模 5,922人

H23教育行政運営方針主要事業名		学校図書館経費（小学校） ほか						
投入コスト	全体計画	22年度 (決算額：千円)	23年度 (決算額：千円)	24年度 (予算額：千円)	25年度 (計画額：千円)	26年度 (計画額：千円)	27年度 (計画額：千円)	
	事業経費	報酬・共済費・旅費	12,365	18,301	18,854	19,400	19,400	19,400
		需用費（消耗、印刷・修繕）	1,899	2,452	1,438	1,337	608	608
		委託料	3,610	2,016	3,209	1,255	0	0
		使用料及び賃借料・役務費	3,854	5,592	7,948	9,187	9,208	9,208
		工事費	384	1,499	2,426	250	0	0
		備品（管理用備品）	4,701	5,975	3,465	3,465	100	100
	備品（図書）	11,816	12,301	12,114	11,986	12,076	12,076	
	合計	38,629	48,136	49,454	46,880	41,392	41,392	
	財源内訳	国庫支出金						
地方債								
その他（参加者負担金） 一般財源		38,629	48,136	44,954	46,880	41,392	41,392	
従事職員数	正規職員	1	1	1	1	1	1	
	その他職員							

根拠法令	子どもの読書活動の推進に関する法律，学校図書館法
------	--------------------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務（義務）	○	自治事務（任意）	市民サービス	建設事業	○	管理経費	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	年度から			年度まで	

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、また学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければなりません。（学校図書館法第1条及び第5条第1項）。 平成19年度から新施策「新学校図書館図書整備5か年計画」がスタートし、文部科学省は、毎年200億円を地方交付税として措置することになりました。 平成20年度には子ども読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）が策定され、国・地方公共団体・関係機関等の連絡体制を強調し、家庭・地域・学校の取り組みについて再構成されました。 なお、平成24年度からは学校図書館のための地方財政措置が充実する予定です。
--------------------------	---

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
予算執行	【①計画性】 計画的な事業実施が行われているか？ (計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：予算執行率98%以上 B：予算執行率90%～98%未満 C：予算執行率90%未満	計画的に執行を行いました。地方交付税算入の図書費の108%を図書費として予算配当しました。事業全体では、予算現額49,032千円に対し、予算執行額は48,137千円で、執行率は98.2%でした。	A
	【②コスト削減】事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	システム貸借や委託料など一部削減を行っているが、学校図書館整備途中のため、ハード面での臨時的経費がかかり、全体的な削減は困難です。	C
対象者	【③事前のニーズ把握】 事業策定は、児童・生徒・保護者・市民・事業実施主体者（学校現場）等のニーズを把握しているか？	A：標準冊数85%以上 B：標準冊数70%以上85%未満 C：標準冊数70%未満	H23年9月末現在、学校図書館図書標準冊数の充足率は小学校105%、中学校98.7%、全体で102.8%です。半数校が標準冊数を満たしていませんが、選書は司書教諭を中心とし、学校図書館ではリスト制度を設けているため、学校・児童面方のニーズを満たしています。	A
	【④事後のニーズ把握】 事業実施後、児童生徒・保護者・市民・事業実施主体者（学校現場）からヒヤリングを定期的に行い事業実施してきたか？	A：会議開催6回以上 B：会議開催1～5回 C：会議開催0回	司書の定例会議を4回開催しました。会議では、各学校の取り組みや課題、要望など意見を聞き、改善に努めました。	B
事業実施過程	【⑤現状の把握】 もし、今回の具体的施策を行わなかった場合、どのようなマイナスが想定されるか？具体的施策が当該事業目的達成にとって適切であったか？	A：具体的施策が項目達成に必要 B：具体的施策の一部不適切 C：具体的施策の見直し必要	学校図書館は学校教育において欠くことのできない基盤的な設備であるものの、特定の時間以外は閉鎖しており、図書の貸出のみに特化されていた。整備後は、誰もが気軽に立ち寄れ、また児童生徒だけでなく教員にとっても授業で欠かせない施設となっている。	A
	【⑥関係機関との連携】 予定した関係機関との連携は的確に行われたか？適切な関係機関との連携計画は予定通り進んだか？	A：連携率20%以上 B：連携率1%以上20%未満 C：連携なし	合同研修会を行った。年間利用計画を作成し、図書の使用内容・時期をまとめることにより、中央図書館での図書の確保に利用できるようになった。また、相互貸借の方針・方法の研究を行い、数冊ながら相互貸借を行った。	B
	【⑦前年度からの改善】 前年度の改善策を実施したか？(昨年度の自己評価シートにある改善策)	A：すべて改善した B：一部改善した C：改善なし	計画的に小学校の学校図書館の整備を行った。学校図書館の活用方法・学校図書館司書の育成について、学校・司書教諭・中央図書館等関係機関と合同研修や専門研修へ派遣を行った。学校図書館の活用については、今後も継続的に研究が必要である。	B
	【⑧他市町村事例と当市当該事業成果比較】 ベンチマークとなる他市の優れた成果との比較により、具体的比較可能事例による評価比較を行う。どの市町村のどの施策と比較する旨を明確にする。	A：他市町村より優れている B：他市町村並み C：他市町村より劣っている	学校図書館先進地である牛久市は、すべての小中学校に専任司書を配置し、学校・司書・公共図書館が組織化され、公共図書館のバックアップ力が大きい。今度、公共図書館と連携を強めていく必要がある。鹿嶋市全体で図書行政運営を検討する必要がある。	C
	【⑨評価実施による日常業務サイクル見直し】 自己評価並びに評価委員会での審議結果を日常業務実施改善に役立った新たなシステム構築に繋がっているか？	A：業務実施に反映している B：業務実施に一部反映できている C：反映できていない	即日の業務改善に至るものと至らないものがあった。至らないものについては、方針・方法等の検討が必要であったためである。	B
育成	【⑩研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、増 B：対昨年度比研修時間、増減無 C：新年度実施に向け、調整中	茨城県図書館協会主催専門研修9名、夏休み中央図書館実地研修8名、先進地(牛久市)視察研修1回、司書教諭研修2回、読み聞かせ研修1回を行いました。	A

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	総合評価	点数	78.0	A：合計点が80点以上 B：合計点が79点～65点 C：合計点が64点以下	総合評価結果	B
本評価に基づく事業の改善策	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 平成23年度は中野西小学校と鹿島小学校に専任司書を配置し、学校図書館を開館しました。8校8人の司書を専任配置し、司書の定例会議の開催や中央図書館司書職員との合同研修を行い、情報の共有化や技術の向上に努めました。また、学校に必要な図書を購入できるよう図書購入費を増額し、不足資料については、小学校の年間計画を作成し、中央図書館の蔵書が検索できるシステムを使って中央図書館の資料の相互貸借を行いました。				
	継続・休止の理由	継続	理由	一人当たりの貸出冊数は52.2冊で横ばいでした。開館2年目から貸出冊数は減ってきている傾向にあるものの、今後は読書量だけでなく、読書の質を高めていく必要があるため。		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・学校図書館未整備校との比較で読書環境に差が出ている。 ・読書センターとしての機能は十分果たしている状況だが、学習センターとしての機能と活用についても研究していく必要がある。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・計画的に学校図書館を整備するとともに、司書の配置について研究・検討していく。 ・中央図書館と連携を図りながら、年間利用計画を小中学校ごとに作成する。 ・司書対象研修会を開催し、図書館の活用を図る。				